現代日本の独立住宅にみられる架構によるモジュールに関する研究

STUDY ON THE MODULE OF FRAMEWORK IN JAPANESE CONTEMPORARY HOUSES

竹内宏俊*, 岩岡竜夫**
Hirotoishi TAKEUCHI and Tatsuo IWAOKA

In this paper we clarified characteristics of relationship between spatial scales and frameworks of Japanese contemporary houses in terms of frame elements and module.

Initially, we analyzed their arrangements of beams and columns, and found several framework shapes.

Secondly, we analyzed their material, span and numbers of framework.

Thirdly, we analyzed their unit spaces, materials and cross-sectional shapes of column, and found several characteristics of sizes and proportions.

In conclusion, we pointed out that most of units spaces were articulated according to proportion and each size of framework, and that indicates spatial scales based on relationship between proportion and module of framework.

Keywords : *module, proportion, framework, contemporary houses*

モジュール、プロポーション、架構、現代独立住宅

1. 序

1-1. 研究の背景と目的

商品化された規格化住宅などにおいては、単一のフレームを均等に反復させることで建物が構成されているものがみられるが、これらは住宅需要の拡大に対し、建設材料を規格化し標準化することで低コストの量産供給を図ることが背景として挙げられる。現代の住宅作品においては、そうした均等に配された架構¹⁾部材を、単に低コストを目的とすることのみに限らず、建設の施工過程や、部品の構成やしくみをデザインとして露出させるような、いわばテクニク(結構的)²⁾な表現として使用する作品も数多くみられる。均質的な架構部材が内外に露出しているこうした住宅作品では、連続する架構のフレームが構造体として機能するだけでなく、内部の間取りやファサードといった、空間のスケールや形態の特徴を決定づけるような、まさに建物全体の「枠組み」になっているといえる。こうしたことから、建築家による住宅作品の架構によるモジュール³⁾が、実体としてどのように設定されているかを明らかにすることは、設計の諸条件への対応や建築における表現の問題を捉える上で有効であると考えられる。そこで本研究では、複数の異なる建築家による住宅作品を対象として、架構の部材やスパンなどの寸法(以下架構寸法)と、架構によるモジュールにみられる特徴との関係によって

成立する建築の空間スケールや形態の特徴の一端を明らかにすることを目的とする。

1-2. 既往の研究および本研究の意義

これまでなされてきた住宅のモジュールや架構に関する研究のうち、本研究のように複数の異なる建築家による作品を対象とするものは、架構と空間構成の相互関係からヴォリュームの分節による建築の構成形式について検討したものがあ⁴⁾、⁵⁾、その他は特定の建築家による住宅作品や国内外の特定の地域の現代的・伝統的な住宅を対象にしたものである⁶⁾、⁷⁾、⁸⁾、⁹⁾。これら既往の研究では、平面や立・断面の構成におけるモジュール⁷⁾、⁸⁾、架構や素材の組み合わせによる空間の構成形式⁶⁾、構成部材の配置⁹⁾、などを分析の手段として、構成分析の方法自体の提案⁹⁾や設計者個人にみられる架構の特徴や傾向を設計者自身の言説や社会的な背景などと結び付けた考察⁶⁾、⁷⁾、⁸⁾などがみられる。

本研究は、架構による空間構成や形態構成の類型を問題にするのではなく、複数の住宅作品を対象とし、架構によるモジュールを柱や梁などの架構各部の寸法や材質から捉え、寸法の相互関係にみいだされるモジュールによる表現の特徴を明らかにすることを目的とするものであり、そのような方法・視点から実体としての建築における空間のスケールを捉える研究はこれまでにみられない。

* 東海大学第二工学部建築デザイン学科 研修員・工修
** 東海大学第二工学部建築デザイン学科 教授・工博

Staff, Dept. of Architectural Design, School of Engineering II, Tokai Univ., M. Eng.
Prof., Dept. of Architectural Design, School of Engineering II, Tokai Univ., Dr. Eng.

2. 研究資料の選定と研究方法

本研究では、まず、架構の形状や柱の配列より、門型などの単一フレームが一方に均等に反復するものを「門型」形式、柱がグリッド状に配置されたものを「グリッド型」形式として分類した。次に、それぞれの架構形式について、架構寸法、すなわち部材各部の寸法やスパンおよびスパン数などを検討することにより、それぞれの形式における寸法の傾向と関係を導く。さらにこれらを重ね合わせることで、架構によってつくられる1×1スパンの空間にみられる性格を検討し、架構によるモジュールの特徴を考察する。

資料となる独立住宅作品の選定にあたっては、現代建築ジャーナリズムのなかで代表的なものであると思われる「新建築住宅特集」誌及び「新建築」誌（1990年1月号から2002年12月号）に「JA」誌（1991年No.1から2002年No.47）を補足した13年間に掲載された独立住宅作品の中で、写真および図面より柱・梁などの線材により構成される架構が門型あるいはグリッド状に等間隔に配列され、それらの架構が建物内部あるいは外部において露出し、連続的に配置されることで表現手段となっている全118作品（門型83作品、グリッド型35作品）¹¹⁾を分析の対象としている。

3. 門型架構におけるモジュール

門型架構におけるモジュールは、図-1の分析例のように、架構の形（以下架構形状）、構造形式¹⁰⁾、梁行きのスパン（以下スパンx）、桁行きのスパン（以下スパンy）とそのスパン数（以下スパン数Ny）、主室（もっとも床面積が大きい部屋）における床から梁上（梁が露出していない場合は天井）までの高さ方向における寸法（以下高さ）、柱・梁などの架構の材質・形状により捉えられる。

3-1 架構形状と架構材質の関係

門型架構における架構の形状と材質による分類および階数別の内訳を表-1に示した。架構形状は、室内において架構の一部が全てが露出しているか、梁が曲線か直線か、直線ならば水平かGLに対して傾いているかを分類の基準としており、門型架構を持つ全資料について分析した結果、曲線によるヴォールト型（∩、以下括弧内は対応する記号）、GLに対して傾いた直線よる片流れ型（∟）及び切妻型（∧）、水平な直線よるフラット型（□）、梁と柱の一方が露出し、他方が壁によるL型（┐）、柱のみが露出しているI型（┌）の6つに分類された。架構の形状と材質についてみるとフラット型のものが資料の過半を占め、中でも鋼材の大半はこの形状で占められていた。木材については、フラット型、切り妻型、片流れ型といった様々な形状がみられた。また、階数については、2階建てが過半を占め、木材、鋼材ともに最も多くみられたが、木材では平屋が、鋼材では3階建て以上が2階建てに次いで多くみられた。

3-2 スパンx・yおよびスパン数Nyとの関係

門型架構を表現する住宅作品においては、スパンやスパン数の設定がその表現に深く関わっていると考えられる。そこで、梁行き方向と桁行き方向のスパンの相互関係をみるために、横軸をスパンx、縦軸をスパンyとするグラフを作成した（図-2）。まず、スパンyについてみると、尺モジュールである450、900、1800mmといった寸法に資料が集中しており、その大半が木材で占められていた。1500～2700mmの範囲では木材および鋼材が混在し、これ以上の寸法では鋼材が多くなっていた。また、1000～1500mmの間と

図-1 門型架構における分析例

表-1 門型架構における架構の形状と材質の関係

形状	形状	形状	形状	形状	形状	その他	合計
材質	形状	形状	形状	形状	形状	形状	形状
木材	17 1F/3 2F/11 3F/3	10 1F/2 2F/8	9 1F/3 2F/5 3F/1	4 1F/2 2F/2	2 1F/1 2F/1	1 2F/1	46 1F/13 2F/29 3F/4
鋼材	26 1F/1 2F/15 3F/7 他/3		3 2F/2 3F/1	2 2F/1 3F/1	1 2F/1	1 他/1	32 1F/1 2F/19 3F/9 他/4
RC	1 2F/1					1 1F/1	2 1F/1 2F/1
その他			1 2F/1			1 2F/1	2 2F/2
合計	44 1F/4 2F/27 3F/10 他/3	10 1F/2 2F/8	13 1F/3 2F/8 3F/2	6 1F/2 2F/3 3F/1	3 1F/1 2F/2	3 1F/1 2F/2	83 1F/15 2F/52 3F/13 他/4

図-2 門型架構におけるスパンx・yの関係

3000～3500mmの間には資料がほとんどみられなかった。

スパンxについては、2500～11000mmまで幅広く分布しており、一定の寸法に集中する傾向はみられなかったが、5000mm前後に鋼材が比較的集中していた。

次に、桁行き方向のスパンとそのスパン数の相互関係をみるために、横軸をスパンy、縦軸をスパン数Nyとするグラフを作成した(図-3)。全資料は全長が20mをあらわすライン(スパンy×スパン数Ny=20m)に沿って集中しており、全長が近似している門型架構のスパン数にばらつきがあることがわかった。

架構の材質に着目すると、木材はスパンyが1800mm以下で10～20スパンの間に集中しているのに対し、鋼材はスパンyが2000mm以上で5～10スパンの間のものが多くみられた。中にはRCでスパンyが1800mm、スパン数Nyが20スパンというかなり特殊な例もみられたが、これはスパンx、すなわち梁行きのスパンの大きさが7200mmあることや、通常の部材断面の逸脱を狙った設計者の意図などがあるためである。これらのことより、門型架構を表現手段とする住宅作品における架構の材質は、梁行きのスパンの大きさにあまり関係なく木材、鋼材が混在していることから、桁行きのスパンの大きさがその材質の決定に関係しているといえる。

4. グリッド型架構におけるモジュール

グリッド型架構におけるモジュールは、図-4の分析例のように門型架構の場合と同様、架構形状、構造形式、スパンおよびスパン数、高さ、架構の材質・形状および断面寸法により捉えることができるが、1方向に反復する門型架構とは異なり、グリッド状に反復しているため、スパン数の少ない方を梁行き(x方向)、多い方を桁行き(y方向)とすることで、スパン数Nx・Ny、スパンx・yとして捉えられる。

4-1 架構の形状と材質の関係

グリッド型架構における架構の形状と材質による分類および階数別の内訳を表-2に示した。架構形状は、室内における架構の露出度合いや、梁の形状や傾きなどを門型架構の場合と同様に分類の基準としており、グリッド型架構を持つ全資料について分析した結果、フラット型(□)、片流れ型(┐)、切妻型(△)、ヴォールト型(∩)、L型(└)、I型(┌)、さらにこれらの組み合わせによるフラット+片流れ型(┐+┐)、切妻+片流れ型(△+┐)の8つに分類された。架構の形状と材質についてみていくと、フラット型が資料の半数を占め、その大半が鋼材であった。片流れ型は、その全てが木材で、片流れとの複合型であるフラット+片流れ型、切り妻+片流れ型などを合わせると、フラット型と片流れ型が資料の大半を占め、門型架構と比べ架構形状に偏りがみられた。階数については、2階建てが大半を占めており、架構の形状や材質との関係はみられなかった。

4-2 スパンx・yおよびスパン数Nx・Nyとの関係

グリッド型架構を表現する住宅作品では、1グリッドの大きさ、すなわち1×1スパンにおけるスパンの大きさやn×nスパンといったグリッド数の設定がその表現に深く関わっていると考えられる。そこで、梁行きと桁行きのスパンの相互関係をみるために、横軸をスパンx、縦軸をスパンyとするグラフを作成した(図-5)。この図より、スパンx・yは同一(x=y)である、いわゆる正方形グリッドをもつものが圧倒的に多いことがわかった。1グリッドの大きさについてみると、1800～4800mmまで幅広い範囲でみられたが、その

図-3 門型架構におけるスパンyとスパン数Nyの関係

図-4 グリッド型における分析例

表-2 グリッド型における架構の形状と材質の関係

形状	材質	合計
□	木材: 3 鋼材: 11 RC: 1 その他: 1	17
┐	木材: 8 鋼材: 1	9
△	木材: 1	1
∩	木材: 1	1
└	鋼材: 1	1
┌	鋼材: 2	2
┐+┐	木材: 1 鋼材: 1	2
△+┐	木材: 4 鋼材: 1	5
合計	35	35

図-5 グリッド型架構におけるスパンx・yの関係

図-6 グリッド型架構におけるスパン数Nx・Nyの関係

中でも1800、2400、2700、3150mmといった尺モジュールに集中しており、それらの大半は木材であった。鋼材については、メーターモジュールのものや、長方形グリッドなどに多くみられた。

次にグリッド数、すなわち桁行き方向と梁行き方向のスパン数の相互関係を見るために、横軸をスパン数 N_x 、縦軸をスパン数 N_y とするグラフを作成した(図-6)。スパン数に関しても $N_x \cdot N_y$ とともに同スパンである 3×3 スパン ($N_x=3 \times N_y=3$) と 5×5 スパンのものが資料の過半を占め、その中でも 3×3 スパンのものは特に多くみられた。また、これら同スパン数のものは、その全てが正方形グリッドであるといった特徴があった。この他の特徴として、スパン数 $N_x \cdot N_y$ が異なるものは $2 \sim 3 \times n$ スパンに集中し、特に $2 \times n$ スパンのものが多くみられた。

5. 架構による単位空間

前章、前々章では、架構によるモジュールについて、門型・グリッド型といった架構形式別に、架構形状や架構寸法を検証した。住宅作品における架構によるモジュールは、これらの寸法に柱や梁などの架構部材の断面形状や高さなどの大きさが深く関係していると考えられる。そこで本章では、3章、4章から得られた、スパン $x \cdot y$ による 1×1 スパンの空間(以下単位空間)に柱の断面形状や高さを重ね、架構による単位空間の性格を検討する。

5-1. 柱の断面形状と単位空間

図7は、3章における門型架構および、4章におけるグリッド型架構のスパン $x \cdot y$ より得られた単位空間の大きさにそれらの柱の材質と断面形状および構造形式を重ねて示したもので、さらに柱の断面形状についてもグラフの縮尺に合わせている。

スパン y についてみると、450、900、1800、2700、3600mmといった尺モジュールのものが多かった。柱の断面形状に着目すると、900mm 前後やそれ以下の寸法では、その大半がツーバイ材や集成材などの扁平木材を使用した門型架構となっていた。これら扁平木材を使用した門型架構には、 y 方向の端部に大開口をとるために x 方向ラーメン造かつ y 方向ブレース造とする一方向ラーメン造(R+B)やSE 構法などにみられる接合部に特殊な金物を用いた半剛節ラーメン造(RB)などの構造形式を用いるものが比較的多くみられた。扁平木材を使用するものは、1800mm を境にあまりみられなくなり、1800mm 前後では100～120mm 角の木材を使用したブレース(筋交)造(B)がもっとも多くみられた。中には、一室による空間構成や開口部にブレースなどの斜材が入ることをさけるために不足する x 方向の水平荷重を補うため、断面寸法の大きい扁平木材を使用するブレース造もみられた。2700mm 前後では120～150mm 角の木材が比較的多く、それらの大半はブレース造で正方形の単位空間に集中していた。単位空間が長方形になると150mm 前後の大きさの丸型や角型、H型など様々な断面形状の鋼材が多くみられ、そのほとんどが $x \cdot y$ の両方向をラーメン造とする二方向ラーメン造(R)となっていた。3600mm 以上になると鋼材が大半を占め、柱の断面寸法を小さくするために一方向ラーメン造やブレース造などを用いるものや、二方向ラーメン造でもRC造の壁に水平荷重の一部を負担させるものなどがみられた。その一方で、柱の断面寸法を大きくすることでブレースの数を減らすといった、まったく逆の方法をとるものもみられた。尺モジュール以外の寸法では、2000、3000mm といったメーターモジュールに集中するものがみられ、木材は断面の大きいものが多く、2500mm 以下では150mm 角程度のH型の鋼材を使

図-7 柱の断面形状と単位空間

用した一方向ラーメン造が比較的多くみられた。

次にスパン x についてみると、3600mm 前後に集中するものが比較的多く、その大半は、スパン y がスパン x の半分の大きさである 1800mm と、スパン x と同一の 3600mm に集中していた。スパン y が 1800mm 付近の柱の断面形状については、その全てが 100mm 角の木材を使用した軸組造であった。

スパン $x \cdot y$ についてみると、 $x \cdot y$ とともに同一である正方形平面の単位空間に集中しており、それらの柱の材質については木材、鋼材、RC など様々なものがみられたが、構造形式はブレース造のものが、柱の断面形状については正方形のものが大半を占めていた。その他には、単位空間の面積が 11 ~ 13 m^2 を表すライン（スパン $x \times$ スパン $y=11 \sim 13 m^2$ ）に沿って集中するものがみられた。このラインに沿うものには、鋼材が比較的多く、150mm 程度の角型や丸型、H 型を使用した二方向ラーメン造が大半を占めていた。また、木材を使用したものには梁にテンション造（B+Te）などの構造形式を使用する特殊なものがみられた。

5-2. 特定のスパン y からみた架構による単位空間

ここでは図-7 より得られた、特定のスパン y における単位空間（図7中＜A-1～A-3＞グループ）の中で、門型・グリッド型架構を通してもっとも多く見られたフラット型の架構形状をもつ資料の高さを分析し、それらを空間ボリュームとして抽出したものを図-8 に示した。以下にその特徴を述べる。

＜A-1＞は、スパン y が 900mm 前後の単位空間である。スパン x に対する高さ、すなわちスパン x 側の断面（以下断面）のプロポーションについてみていくと、おおよそ 1:0.5 ~ 0.6（スパン x : 高さ、以下同）の比であることがわかる。

＜A-2＞は、スパン y が 1800mm 前後の単位空間である。スパン x の大小にかかわらず、高さは 2600mm 前後（2500 ~ 2700mm）

とほぼ一定の大きさで、＜A-1＞とは異なり、特定のプロポーションによらないことがわかる。

＜A-2'＞は、スパン y が 2000mm の単位空間である。＜A-1＞と同様に断面にはある一定のプロポーションが見られるが＜A-1＞とは異なり、より正方形に近いプロポーション（1:0.8 ~ 1）であることがわかる。

＜A-3＞は、スパン y が 2700mm 前後の単位空間である。＜A-2＞と同様、スパン x の大小にかかわらず、高さは 2600mm 前後でほぼ一定の大きさであることがわかる。

5-3. 特定の条件からみた単位空間

ここでは図-7 より得られた、スパン x や平面形状、面積などの特定条件における単位空間（図7中＜B～D＞グループ）と門型架構に比較的多くみられた切妻型の架構形状における単位空間について、前項と同様に高さを分析し、空間ボリュームとして抽出したものを図-9 に示した。

＜B＞は、スパン x が 3600mm 前後の単位空間である。高さは、一部の例外を除き 2200 ~ 3600mm と比較的幅広く分布しており、＜B＞における単位空間に共通する傾向はみられない。

＜C＞は、スパン x とスパン y が同じ大きさの正方形平面における単位空間である。高さは 2200 ~ 2800mm の間に比較的集中しているが、断面に一定のプロポーションがみられ、その比はほぼ 1:1（正方形）になっている。すなわち＜C＞においてはスパン $x \cdot y$ 、高さともに同じ大きさである立方体の単位空間になることがわかる。

＜D＞は、平面の面積が 11 ~ 13 m^2 （スパン $x \times$ スパン $y=11 \sim 13 m^2$ ）の単位空間である。断面についてみると、ほぼ正方形に近いプロポーション（1:0.9 ~ 1）がみられる。＜D＞においてはスパン x に対してスパン y は反比例し高さは比例するため、スパン x が小さくなると、高さが小さくスパン y が大きい細長い単位空間に、スパン

図-8 特定のスパン y からみた架構による単位空間

図-9 特定の条件からみた架構による単位空間

ンxが大きくなると、高さが大きくスパンyが小さい平たい単位空間になることがわかる。

<E>は、門型架構で切妻型の架構形状の単位空間である。スパンyは910～4800mmと幅広く分布しているが、スパンxは4000mm前後に比較的集中している。登梁の勾配についてみていくと、スパンxが5000mm以下ではその大半が1:0.4～0.6といった一般に4寸～6寸勾配と呼ばれる勾配になり、スパンxが5000mm以上になると1:0.3(3寸勾配)と比較的緩い勾配になることがわかる。

6. 結

本研究では、架構によるモジュールについて、まずそれらの架構の形状と材質の組み合わせから分類を行い、次にスパンやスパン数などの架構寸法を検討することから、柱の配列が異なる2つの形式におけるそれぞれの傾向を明らかにした。

さらに上記の2つの異なる形式から得られた1×1スパンの単位空間にその柱の材質と断面形状、構造形式を重ねて検討することにより、その空間の大きさと柱の材質や断面形状、構造形式との間にいくつかの傾向をみいだした。また、こうした単位空間に高さを加え、立体空間として抽出したものを検討することにより、桁行き方向のスパンに対する高さや、梁行き方向のスパンと高さによる断面のプロポーシオン、梁行き方向のスパンに対する梁の勾配などの傾向を明らかにした。

以上で得られた結果は、現代日本の独立住宅作品における架構によるモジュールが、ある一定の寸法やプロポーシオンに沿っていることを示しており、架構によるモジュールの空間スケールや形態的特徴の一端が架構各部の寸法関係にもとづいていることが明らかとなった。

本論文に関する既発表論文

- 1) 竹内宏俊、浅沼真一、岩岡竜夫：独立住宅にみられるグリッド型架構のモジュールについて—現代建築の<スケール>に関する研究 その13、日本建築学会大会学術講演梗概集F-2、p.643～644、2004年
- 2) 浅沼真一、竹内宏俊、岩岡竜夫：独立住宅にみられる門型架構のモジュールについて—現代建築の<スケール>に関する研究 その14、日本建築学会大会学術講演梗概集F-2、p.645～646、2004年

参考文献及び註

- 1) 「架構」については「複数の部材で構成された骨組。部材の組み方や形状により、ラーメン、トラスあるいはアーチなどに分かれる。(建築学用語辞典第二版、日本建築学会、p.104)」や「材を結合して作った構造物(広辞苑第五版、岩波書店、p.486)」といった定義がされている。本研究では、建物の主要構造を構成している柱や梁などの骨組みを架構と呼ぶ。
- 2) ケネス・フランプトン著、松田強／山本想太郎訳：テクトニック・カルチャー 19-20世紀建築の構法の詩学、TOTO出版、2002年、pp.17、によるとテクトニック(結構)という言葉は、大工や建設者を意味するギリシア語のテクトン(tekton)という言葉は語源に持ち、それがやがてホメロス(古代ギリシア最古の叙事詩人)の頃には建設の技芸を、そしてサッフォー(BC612～?)の頃には大工という言葉が詩人の役割をも獲得し、詩的な意味を持っていたり、最終的には棟梁やアルキテクトン(architekton)に行き着きことになり、技術的なものから美的なものへと変容していくと述べられている。
- 3) 「モジュール」については「①建築各部を簡単な比率で示せる寸法単位。ギリシア建築、ローマ建築では柱身下部の径を基準にすることが多い。②建築の設計において基準として用いる単位寸法、または数理化した寸法群。③建築を構成する箱形のユニット。工場生産されたモジュールは現場に輸送され、積み重ねられて住宅などの建築になる。④回路系など一組の装置の構成単位。(建築学用語辞典第二版、日本建築学会、p.729)」などと定義されている。本研究では均等間隔に反復する柱や梁などの架構により構成される空間単位をモジュールと呼ぶ。
- 4) 塚本由晴、奥矢恵、坂本一成：住宅作品における架構表現による構成単位の方節—住宅建築の構成形式に関する研究、日本建築学会計画系論文集、No.480、pp.113～121、1996.02
- 5) 中井邦夫、妹尾慎吾、坂本一成、現代建築作品における架構と空間構成—外形ヴォリュームの方節による建築の構成形式に関する研究 その3、日本建築学会計画系論文集、No.551、pp.149～155、2002.01
- 6) 那須 聖、八木幸二、大島 ケン 正：R.M. シンドラーの住宅における機能空間の構成からみた素材と架構の表現—南カリフォルニアにおける近代住宅の空間構成に関する研究、日本建築学会計画系論文集、No.517、pp.313～319、1999.03

- 7) 末包伸吾：ルドルフ・シンドラーの住宅建築における空間構成材とモジュールによる空間構成法、日本建築学会計画系論文集、No.494、pp.261～267、1997.04
- 8) 末包伸吾：リチャード・ノイトラの住宅作品における空間構成材とモジュールによる空間構成法、日本建築学会計画系論文集、No.521、pp.277～319、1999.07
- 9) 堀江亨：日本の伝統的民家の架構配置に関する分析術語定義—木造軸組工法の空間構成に関する研究 その1、日本建築学会計画系論文集、No.501、pp.117～124、1997.11
- 10) 「構造形式」の区分は、材料の種類、構造、施工方式などにより分類することができるが、本研究ではラーメン造やブレース(筋交)造といった耐力要素を分類の基準とした。
- 11) 付表 資料リスト

No.	掲載誌	作品名	主体構造 (構造形式)	階数	架構形状
1-001	jt1990/08	湖崎場のガラス小屋	鉄骨造 (R+B)	2	切妻型
1-002	jt1990/10	HOUSE 23.6' / 松浪邸	木造 (B)	2	ヴォールト型
1-003	jt1991/02	ON THE CULVERT	木造 (B)	3	切妻型
1-004	jt1991/03	Bar-T	木造 (B)	1	切妻型
1-005	jt1991/09	MACAZZINO	木造 (B)	2	切妻型
1-006	jt1992/06	日本橋の家	鉄骨造 (R)	4	フラット型
1-007	ja1992/07	四季が丘の家	木造 (B) + 鉄骨造+RC造	2	フラット型
1-008	jt1993/10	ダブル・ルーフの家	木造 (RB) + 鉄骨造	1	フラット型
1-009	jt1994/02	野矢の倉	木造 (B+Te) + 鉄骨造	1+地下1	片流れ型
1-010	jt1994/04	新井の家	鉄骨造 (R+B) + RC造	3+地下1	ヴォールト型
1-011	jt1994/08	NOS-H	木造 (B)	2	フラット型
1-012	jt1994/09	藤藤 水元の家	鉄骨造 (B)	2	フラット型
1-013	jt1995/03	大和の家 桜ヶ丘動物病院隣接	鉄骨造 (B)	3	フラット型
1-014	jt1995/04	曹茶の家	木造 (B) + RC造	2+地下1	L型
1-015	jt1995/07	いさぎの週末住宅	木造 (B)	2	ヴォールト型
1-016	ja1995/17	津山の家	鉄骨造 (B) + RC造	2	フラット型
1-017	ja1995/20	ドラキウラの家	鉄骨造 (R)	2	フラット型
1-018	jt1996/01	ISORE STUDIO&RESIDENCE	鉄骨造 (R) + RC造	2	ヴォールト型
1-019	jt1997/11	稲の家-IV [原部]	鉄骨造 (R+B) + RC造	4	フラット型
1-020	jt1998/03	稲の家-III [増田部]	鉄骨造 (R+B)	2	ヴォールト型
1-021	jt1996/06	もえぎ野の家	木造 (B)	2	フラット型
1-022	jt1996/08	CRYSTAL UNITII	鉄骨造 (R)	2	フラット型
1-023	jt1996/11	軽井沢のUNITII	木造 (B)	2	ヴォールト型
1-024	jt1997/03	小園S邸	鉄骨造 (R)	1	フラット型
1-025	jt1997/03	野矢の家	鉄骨造 (R)	3	フラット型
1-026	jt1997/04	水堀 210	木造 (R+B)	2+ロフト	フラット型
1-027	jt1997/07	西川口の家	鉄骨造 (R)	3+ロフト	フラット型
1-028	jt1997/08	稲根山荘	鉄骨造 (R+Te)	2	切妻型
1-029	jt1997/11	住居No.21 千歳島山の家	木造 (R+B)	2	片流れ型
1-030	jt1998/02	田舎の家	木造 (B)	2	フラット型
1-031	jt1998/03	Lime House	鉄骨造 (R+B) + RC造	3+地下1	切妻型
1-032	jt1998/03	I-HOUSE	木造 (B)	2	片流れ型
1-033	jt1998/05	久住家のゲストハウス2	木造 (E)	1	その他
1-034	jt1998/07	聖天下の家	鉄骨造 (R) + RC造	3	フラット型
1-035	jt1998/07	海老立田の住宅	鉄骨造 (R)	2+地下1	切妻型
1-036	jt1998/09	アイビーストラクチャーの家	鉄骨造 (R)	2	フラット型
1-037	jt1998/09	真岩の家	木造 (B)	2	片流れ型
1-038	jt1998/11	七尾が浜の木箱	鉄骨造 (R+B)	2+地下1	フラット型
1-039	ja1998/30	PCバイルの家	鉄骨造 (R) + RC造	1	ヴォールト型
1-040	jt1999/03	真喜崎フォトスタジオ	鉄骨造 (R)	3+地下1	L型
1-041	jt1999/04	山崎邸	鉄骨造 (R+B)	3	フラット型
1-042	jt1999/05	山村・伏野邸	鉄骨造 (R)	3	フラット型
1-043	jt1999/05	水井の家	鉄骨造 (R)	3	フラット型
1-044	jt1999/06	森の家	木造 (RB)	2	フラット型
1-045	jt1999/07	稲根山荘	木造 (R+B)	2	切妻型
1-046	jt1999/07	富士原荘	木造 (B) + RC造	2	片流れ型
1-047	jt1999/07	C-HOUSE	木造 (B)	1+ロフト	その他
1-048	jt1999/08	T-HOUSE	鉄骨造 (B)	2	フラット型
1-049	jt1999/08	Z-HOUSE	鉄骨造 (R) + RC造	2+地下1	フラット型
1-050	jt1999/10	奥島邸	木造 (B)	2	L型
1-051	jt1999/10	カムクラージュ ハウス2	木造 (B+Te) + 鉄骨造	2	切妻型
1-052	jt1999/11	柏・U邸	木造 (B) + RC造	2	片流れ型
1-053	jt1999/11	TAKAHASHI HUTTE	木造 (B)	2+地下1	L型
1-054	sk1999/11	ひさまつPAO	木造 (Te)	2	ヴォールト型
1-055	jt1999/12	TS邸	木造 (B)	1	フラット型
1-056	sk2000/02	Old M Cabin	木造 (B)	2	切妻型
1-057	sk2000/04	再生木ルーパーハウス	鉄骨造 (R) + RC造	2+地下1	フラット型
1-058	jt2000/05	MAYUMIYAの工房	木造 (R+B)	1+ロフト	切妻型
1-059	jt2000/07	ソート風の庭	木造 (B)	2	切妻型
1-060	jt2000/08	稲根山荘	鉄骨造 (R)	2	フラット型
1-061	jt2000/10	野屋の家	木造 (B)	2	片流れ型
1-062	jt2000/11	橋の家	木造 (B)	3	フラット型
1-063	ja2000/37	ナチュラルユニット	鉄骨造 (E)	2	L型
1-064	ja2000/37	木とカーテンウォールの家	木造 (RB) + RC造	3+地下1	フラット型
1-065	jt2001/01	はだかの家	木造 (R+B)	2	ヴォールト型
1-066	jt2001/01	Villa G	木造 (R+B)	1	その他
1-067	sk2001/03	ZIG HOUSE/ZAG HOUSE	鉄骨造 (R+B)	2	フラット型
1-068	sk2001/06	春日邸のダブルハウス	鉄骨造 (RB)	2	フラット型
1-069	jt2001/07	ホワイトボックス	鉄骨造 (RB)	2	フラット型
1-070	jt2001/07	木箱・鉄千代	木造 (R+B)	2+地下1	変形片流れ型
1-071	jt2001/07	木箱・鉄千代	木造 (R+B)	2+ロフト	フラット型
1-072	sk2002/07	水美の家	RC造	2	フラット型
1-073	jt2001/11	ブライウッド・キッド・ハウス	木造 (R+B)	1	フラット型
1-074	jt2001/07	海の家	木造 (B)	2	切妻型
1-075	jt2001/08	Y-HOUSE	木造 (B)	1+地下1	L型
1-076	jt2002/03	h/dah	鉄骨造 (R)	2	フラット型
1-077	jt2002/03	上目黒の家	木造 (RB)	2+ロフト	片流れ型
1-078	jt2002/08	ピクチャー・ウィンドウの家	鉄骨造 (R+Tr)	2	フラット型
1-079	jt2002/09	緑丘の家	鉄骨造 (R)	2	フラット型
1-080	jt2002/12	ツツミの家	鉄骨造 (R+B)	3	フラット型
1-081	sk2002/10	ナチュラルエリッパ	鉄骨造 (B)	4+地下1	その他
1-082	ja2002/46	住居No.22	鉄骨造 (B)	2	フラット型
1-083	jt2002/02	ミニム・ハウス	鉄骨造 (R+B)	4	フラット型
1-084	jt1990/04	現代民家No.2 私の家	鉄骨造 (R)	1	フラット型
1-085	jt1991/01	丹波町のデンマークハウス	木造 (B)	1	片流れ型+切妻型
1-086	jt1991/01	ライトハウス	鉄骨造 (RB)	3	フラット型
1-087	jt1991/12	安藤野絵本館	木造 (B)	3	フラット型+片流れ型
1-088	jt1992/12	ヘルメスの家	RC造 (B)	2	フラット型
1-089	jt1993/10	立川の家	木造 (B)	2+地下1	片流れ型
1-090	jt1994/01	吹上の家 間の間	木造 (B)	2	フラット型
1-091	jt1994/01	住居No.14 筑波・黒の家	木造 (B)	2	片流れ型+切妻型
1-092	jt1995/01	下鴨の家	鉄骨造 (B)	2	フラット型
1-093	jt1995/03	大塚邸	鉄骨造 (R)	2+地下1	片流れ型
1-094	jt1995/07	稲根山荘	木造 (B)	2	片流れ型
1-095	jt1995/10	剣谷の家	木造 (B)	2	片流れ型
1-096	jt1996/01	鎌倉の住宅	木造 (B)	2	片流れ型
1-097	jt1996/04	丹那の家	木造 (B)	3	フラット型
1-098	jt1996/07	Y-HOUSE	木造 (B)	2	フラット型
1-099	jt1996/07	野矢の週末住宅	木造 (B)	1	R型
1-100	jt1997/03	稲根山荘	鉄骨造 (R)	3	切妻型
1-101	jt1997/07	東大坂の家	鉄骨造 (B)	3	フラット型
1-102	jt1997/08	明石の家	木造 (B)	3	片流れ型
1-103	jt1997/12	テラススタジオ	鉄骨造 (B)	2	フラット型
1-104	jt1998/08	稲根山荘	鉄骨造 (B)	2	片流れ型+切妻型
1-105	jt1998/10	晴露邸	木造 (B)	2	片流れ型
1-106	jt1998/10	Taniyama A+H	鉄骨造 (R)	2	フラット型
1-107	jt1998/11	ワークエンドハウス	木造 (E)	1	L型
1-108	jt1998/12	東条家の山荘	木造 (B)	2	片流れ型
1-109	jt1999/03	稲根山荘	鉄骨造 (RB)	2	片流れ型
1-110	jt2000/01	1-100 HOUSE	鉄骨造 (R)	2+地下1	L型
1-111	sk2000/02	PLANE+HOUSE	鉄骨造 (R)	3+地下1	フラット型
1-112	jt2000/01	アルミエコハウス (エコ素材住宅)	アルミ造 (B)	2	フラット型
1-113	jt2000/02	武蔵野の家 <内>と<外>の間VIII	鉄骨造 (B)	2	フラット型
1-114	jt2000/07	向かいの森	木造 (B)	3	フラット型
1-115	jt2001/06	Jungle Gym 2250	鉄骨造 (R)	2	フラット型
1-116	jt2002/10	浜田山の家	木造 (B)	2	片流れ型+切妻型
1-117	jt2002/12	稲根山荘	木造 (B)	1	L型

※1 掲載誌名の記号はそれぞれ、sk:「新建築」、jt:「新建築住宅特集」、ja:「ja」を示す

※2 構造形式の記号はそれぞれ、R:「二方向ラーメン造」、RB:「半剛節ラーメン造」、B:「ブレース(筋交)造」、R+B:「一方向ラーメン造かつ他方向ブレース造」、Tr:「トラス造」、Te:「テンション造」、E:「その他」を示す

(2004年8月27日原稿受理、2005年1月27日採用決定)